



アカガレイ日本海系群 令和3年度資源評価結果

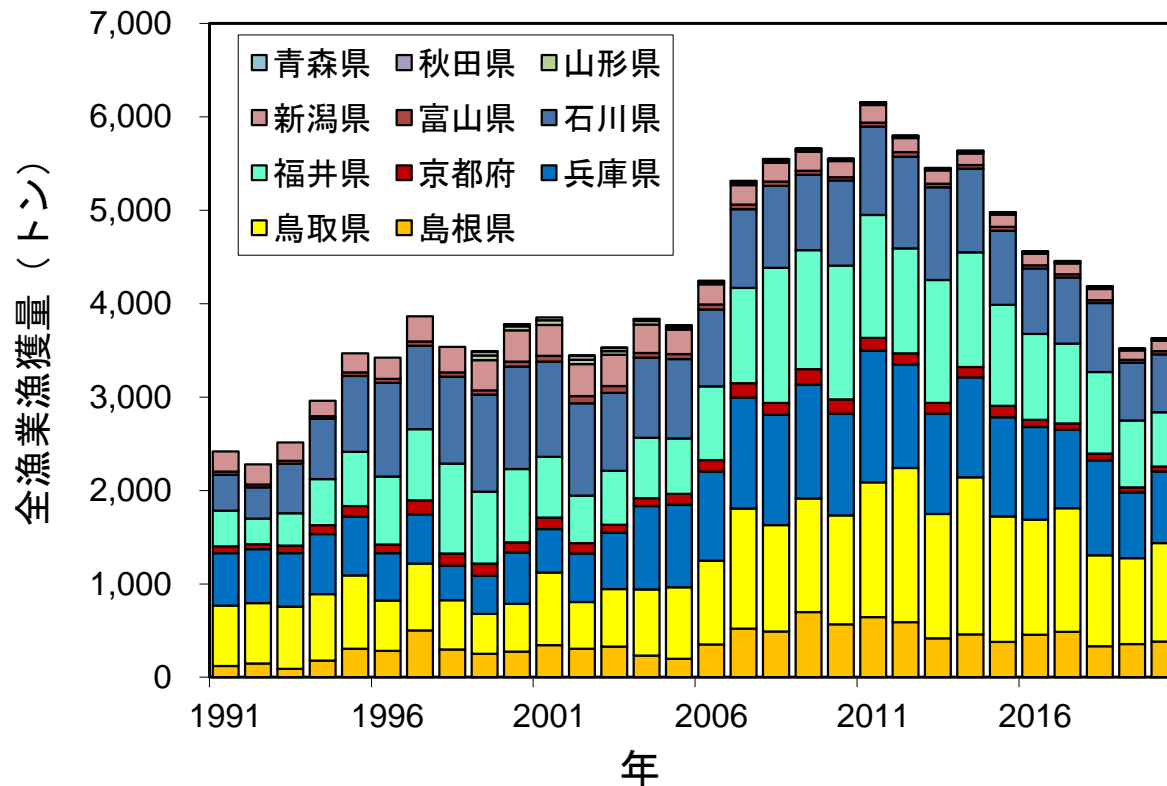
生物学的特性



生物学的特性

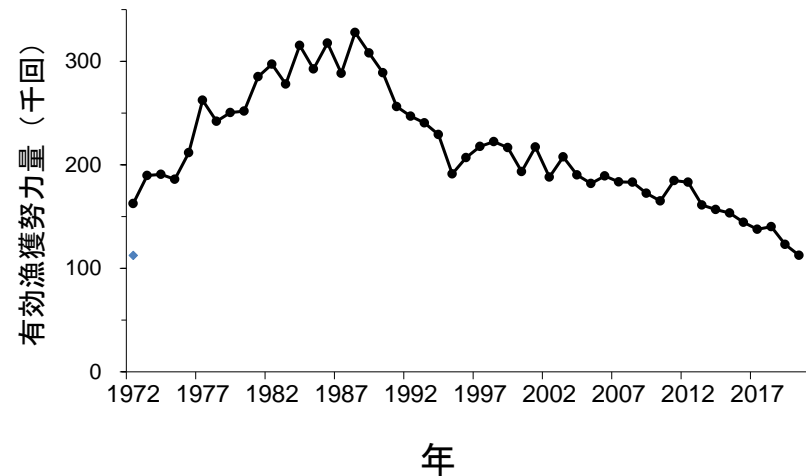
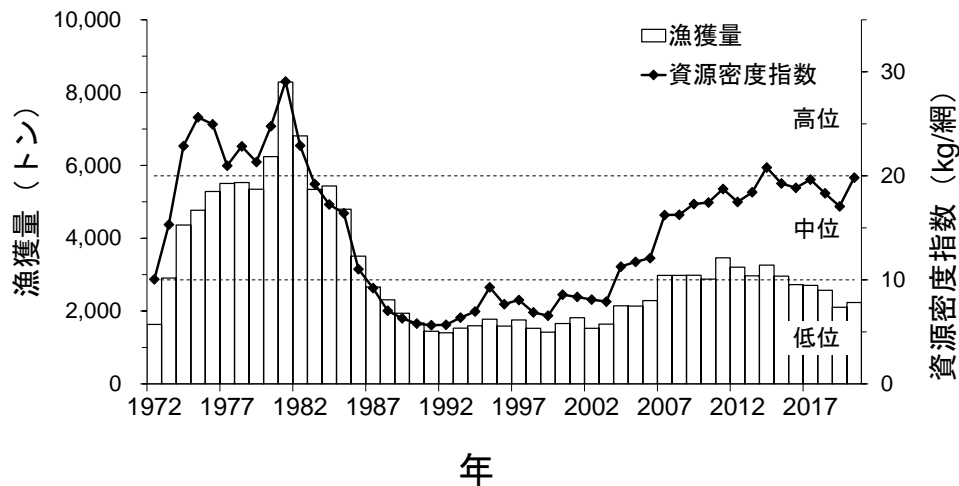
- 寿命: 雌20歳、雄15歳
- 成熟開始年齢:
雌5歳(50%)、10歳(100%)
雄3歳(50%)、10歳(100%)
- 産卵期・産卵場:
2~4月、若狭湾内、経ヶ岬周辺および赤碓沖を中心とする
隠岐諸島周辺の海域
- 食性:
浮遊期は小型プランクトン
着底後は周年クモヒトデ類、
季節的にマイクロネクトン
- 捕食者: 大型のマダラは小型
のアカガレイを捕食する

漁獲の動向①



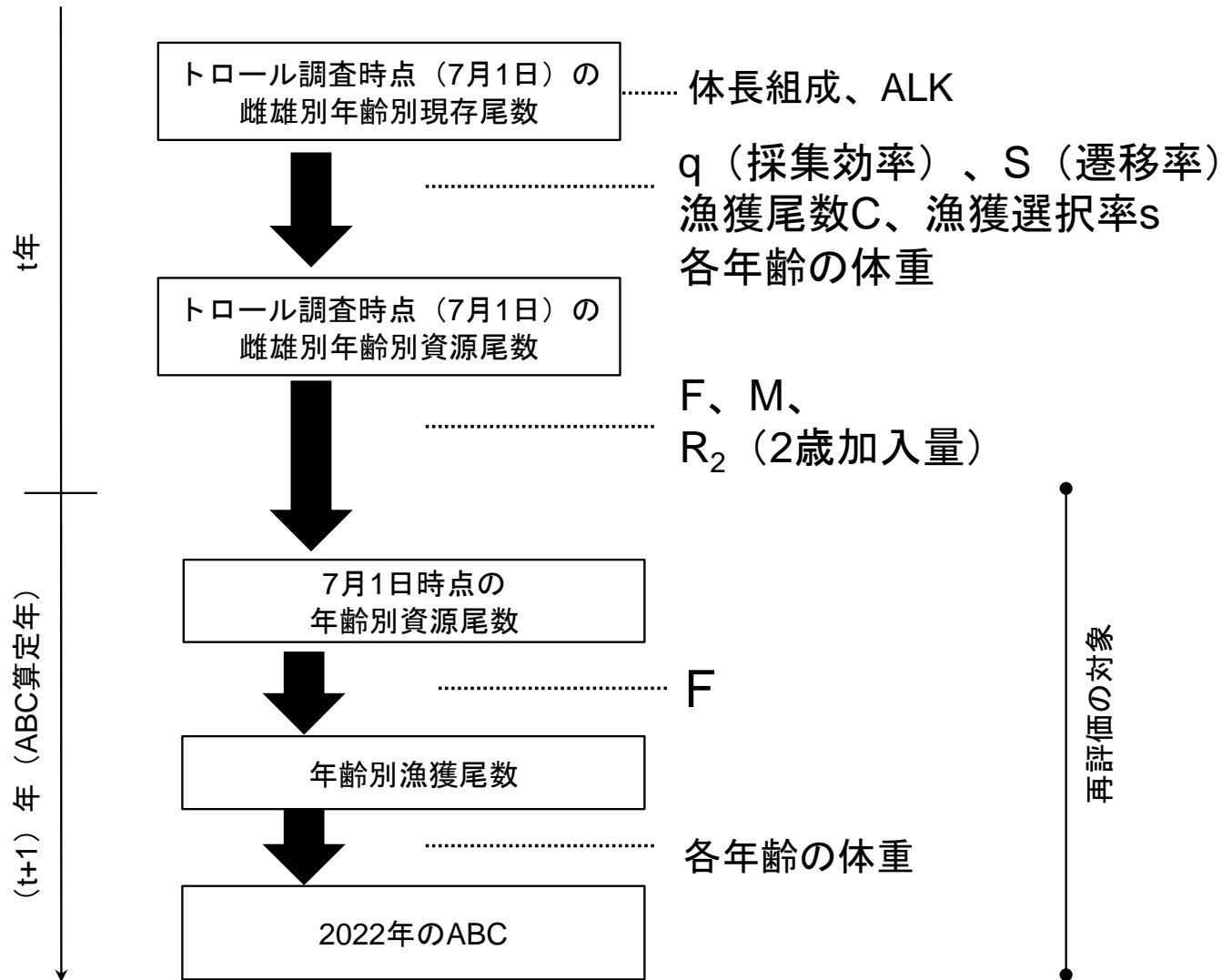
- 漁獲量は1992年に2,281トンと最低を記録するも、その後増加、2015年以降は減少傾向
- 2020年の漁獲量は3,625トン
- 鳥取県、兵庫県、福井県、石川県の漁獲量の割合が多い
- 9割以上の漁獲は沖合底びき網（沖底）と小型底びき網

漁獲の動向②

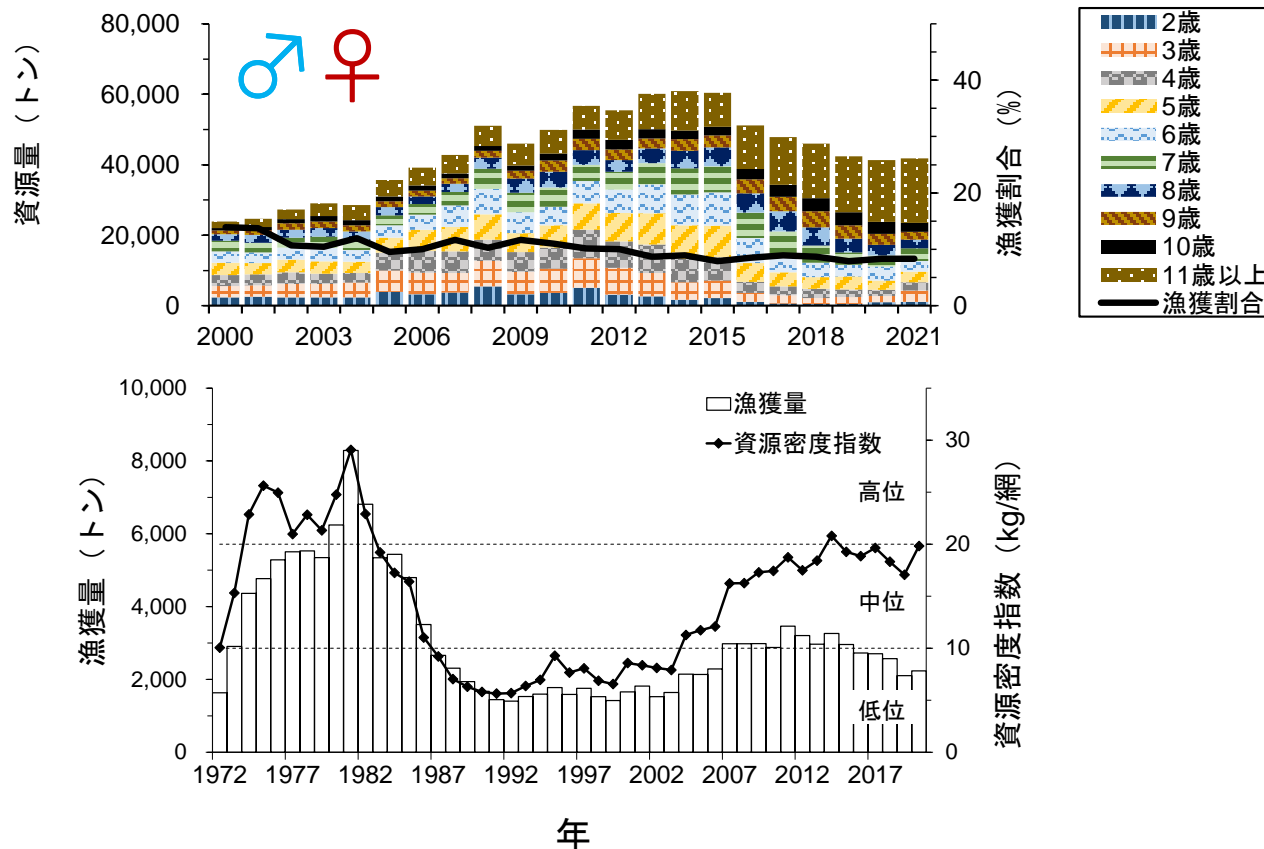


- 沖底（1 そうびき）の資源密度指数は1981年をピークに減少したが、2004年から増加に転じ、2020年は19.8
- 沖底（1 そうびき）の有効漁獲努力量は、1980年代後半から減少傾向、2020年はおおよそ12万回

資源評価の流れ



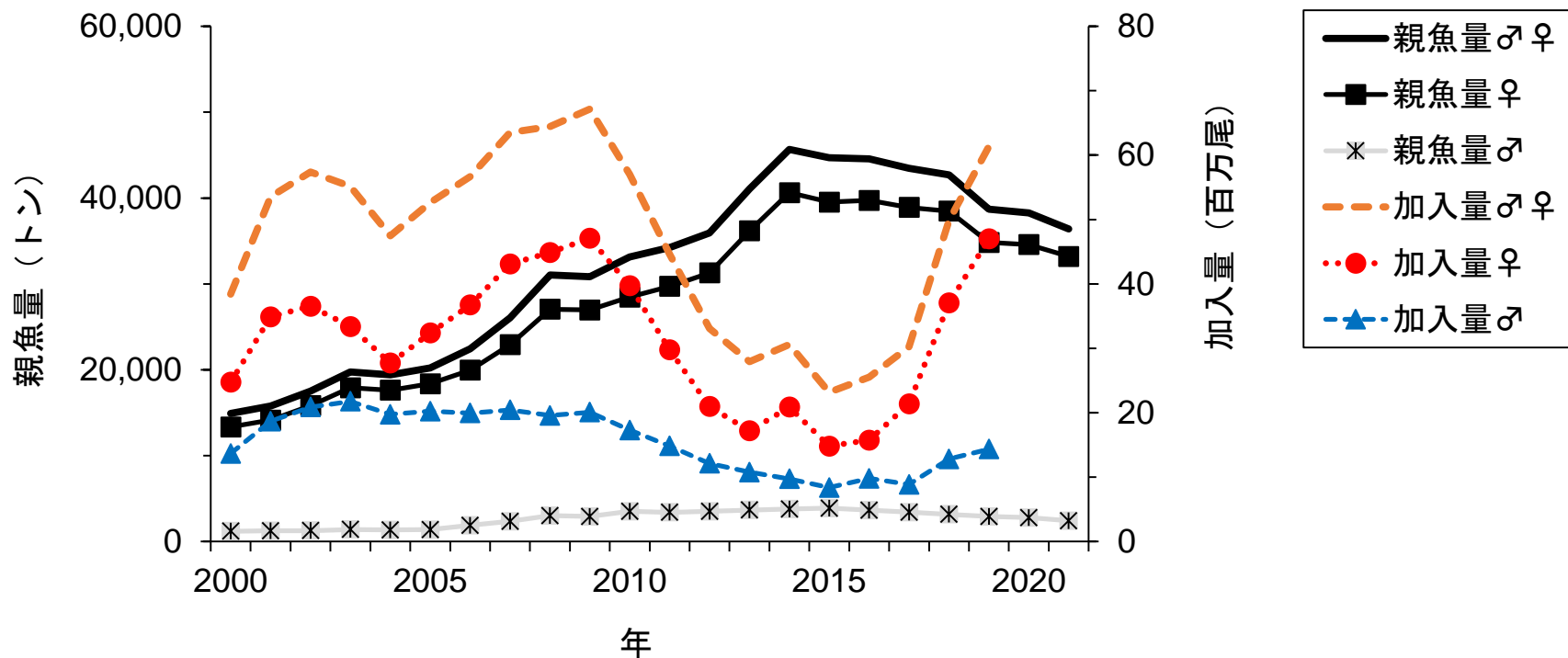
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源密度指数10、中位／高位：資源密度指数20
(1972年以降の資源密度指数の最高値30と0との間を3等分)

- 資源水準：2020年の資源密度指数は19.8から「中位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「減少」
2021年の資源量は41,807トン

資源の動向②



- 親魚量：2014年の45,651トンがピーク、以後は増減を繰り返しつつ推移、2021年は36,403トン
- 加入量：2000年代に多かったが、2012～2016年にかけて最も少なかったが、その後は雌雄ともに増加傾向

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は減少
- 漁業依存情報およびコホート解析による資源量に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

| 管理基準 | Target/ Limit | 2022年ABC (百トン) (雄、雌) | 漁獲割合 (%) (雄、雌) | F値 (雄、雌) (現状のF値からの増減%) |
|-------------------------|------------------|----------------------------|----------------------|-------------------------------|
| 0.8F _{current} | Target | 28 (6、22) | 6 (10、6) | 0.07 (0.11、0.06) (-33%) |
| | Limit | 33 (7、26) | 9 (12、7) | 0.08 (0.13、0.07) (-20%) |

- 0.8 : 不確実性を考慮した際の値
- F_{current} : 現状の漁獲圧 (2020年)